参考　1

本庁舎整備検討委員会（第１回・第２回）における議論の概要

1　論点に対する意見等

			発言要旨	事務局の見解	基本構想（案）への反映
論点1について	エリアマネジメント		・平常時から顔の見える親しい関係を育むことをエリアマネジメントの中に位置づけ、非常時に誰がどのような役割を担うか、それを地域の人が知っておくことが重要。	長期的なスパンからの検討が必要と判断し、今後も継続的に検討して参ります。 そのため、基本構想では「新庁舎整備に付随して検討する事項」として明示しています。	第７章 ３
	本庁舎・みなと公園とその周辺を中心に	空きスペースの確保	・災害時には、物資の置き場や作業スペースなど、屋内外に広いスペースが必要になる。 ・本庁舎駐車場やみなと公園を防災利用に向け再構築する等、新しい観点が必要。 ・平常時の利用も想定した、無駄のない計画が必要。	「本庁舎整備の基本理念」は、本庁舎の建物に特化して取りまとめる方針です。 そのため、基本構想では「新庁舎整備に付随して検討する事項」として明示しています。	第７章 １
		非常時の活用方法	・交通の要所にあり、地域防災計画上の関係機関が集積していることに加え、食品コンビナートがあるので食料調達も可能ではないか。 ・このエリアには、医師会や日本赤十字が立地している。一方、医療機能は市内に分散して対応することになることから、例えばこの敷地の駐車場を活用して患者を選別したうえで医療機関に搬送することも考えられる。	長期的なスパンからの検討が必要と判断し、今後も継続的に検討して参ります。 そのため、基本構想では「新庁舎整備に付随して検討する事項」として明示しています。	第７章 ３
		人のつながりづくり	・日ごろから連絡を取り合う関係づくりが必要。 ・職員を災害対策のプロとして要請していく必要がある。 ・連携には、人の繋がりや口コミが有効。		
		防災対策エリアの形成	・論点１を前提に、ハード・ソフト面、職員の訓練対応等の議論を進めていき、災害に対して高い機能を持った庁舎の建設を目指したい。 ・全国的にも稀にみる立地状況であり、この利点を活かしたネットワークとして検討すべき。		
		みなと公園の活用	・防災に特化すると考えた場合、例えばみなと公園をフラットな公園として整備し、ヤードを確保するという考え方もある。市民の反対は出るかもしれないが、エリア特性を鑑みて検討していく必要がある。	基本構想策定以降、みなと公園や周辺道路網の活用方策を検討するため、敷地活用調査に着手する予定です。 そのため、基本構想では「新庁舎整備に付随して検討する事項」として明示しています。	第７章 ２
論点2について	通常時と非常時		・非常時に重要な役割を果たすスペースは、平常時にどう活用するかが課題。 ・非常時の想定をしていても、実際は何が起こるかわからない。ある程度の防災機能は必要不可欠だが、そこに人の力を付加しないといけない。「人の力」が一番強い。	スペースの活用方法（通常時及び非常時）は、今後の基本計画において、引き続き検討する予定です。 「人の力」に代表される「顔の見える関係性づくり」については、「新庁舎整備に付随して検討する事項」として明示しています。	第７章 ３
	市民へのアプローチ		・素晴らしい庁舎を建てても、市民に関心を持ってもらえなければお金をかけても無駄になる。コミュニティのブランディングを通じて人と住んでいる町の絆を強くし、コミュニティに対する意識を向上していく必要がある。 ・若い人たちがどう生きていきたいのかを理解すれば東京よりも千葉が好きという感情になる。ブランディングというのは上からではなく、下から自発的に出来上がっていくものであり、そういったコミュニティの視点も重要。 ・財政の観点から、市役所を建て替えることに反対する人もいるが、災害時に司令塔という重要な役割を担うことを市民に理解してもらうことが重要。 ・大学生など若い世代のネットワークを活用していくことも考えられる。	市民と本庁舎との関係性について、「政令指定都市における本庁舎の役割」として、通常時と非常時に分けて記載することにしました。 本庁舎整備事業についての市民への発信方法については、今後検討してまいります。	第２章 ３
	本庁舎の公共性		・本庁舎が市民にどのようなサービスを提供するか、どの様な機能を有するべきか検討が必要。 ・庁舎は公共性のシンボルである。公共性の意味合いが、「行政・役所が長く独占するという意味」から「地域や市民ベースでの公共性という意味」に変化しているので、現在求められている公共性に見合った新庁舎の建設が問われる。		

2　現庁舎及び現敷地に対する意見等

			発言要旨	補足説明　等	基本構想（案）への反映
本庁舎敷地について	土地の安全性	津波	・海に近い立地であり、津波に対する安全性について説明が必要。	状況分析の中で、現在の本庁舎敷地が抱えているリスクを明示するとともに、その対応策についても明示しています。	第５章 ２
		液状化	・液状化が起る可能性があるのではないか。		
	周囲との関係性		・ライフラインを担う企業が周辺に集積しており、情報収集には非常に良い立地。 ・食品コンビナートとの連携、非常時対応等での関連団体の誘致など、拠点性を持たせることも可能。 ・周辺の施設等との連携について、平常時と非常時の活用可能性を検討可能。	状況分析の中で、現在の本庁舎敷地の特性について明示します。	第５章 １
	交通	陸上交通等	・空、陸、海の面から災害対策を考えた場合、現敷地が一番適切。		
		海上交通	・陸上交通が遮断された場合でも、海運を利用できるなど、物流の面でも利点あり。		
	本庁舎敷地の選定		・液状化への対策は可能という事だが、この場所に新庁舎を建設するというのは不安。	状況分析の中で、現在の本庁舎敷地の特性と敷地が抱えるリスクを比較検討し、現敷地が本庁舎敷地に相応しいことを明示します。	第５章 ３
現庁舎の安全性	既存庁舎のＩｓ値		・施設の形態によって一部Ｉｓ値が低い部分もある。	状況分析の中で、現在の本庁舎が抱える課題を明示します。	第３章 １
	耐震補強の可能性		・庁舎は、通常の耐震補強の1.5倍の強度が必要であるが、現庁舎の大規模改修では、ここまでの耐震性能を有する改修は不可能ではないか。 ・こうした点も市民に説明していくことが必要。		
	建物の揺れ		・東日本大震災の際の庁舎の被害は実際の震度より大きい印象をうけるが、揺れやすい地盤が影響しているのではないか。		
	床スラブ		・床スラブが薄いようで、職員数と書類の量を考えると安全性の低い建物だと思う。改修での対応は難しいと考える。構造的に弱い建物ではないか。		

3　新庁舎整備基本構想の対象外のテーマ

		発言要旨
まちづくりの視点	防災ネットワークの形成	・本庁舎敷地と周辺の敷地をどのように活用するのか。周辺住民の方がどう思われているのか、どういう機能を持つべきか、そして防災ネットワークをどう構築していくのか、これは、この地域だけの議論にとどまらない。 ・俯瞰したネットワークの中で本庁舎を位置づけていくことが重要。 ・区役所レベルの防災ネットワーク、それぞれの区ごとのネットワークをさらにつなぐネットワークというような重層的なネットワークをどう作り、機能させていくかが課題。
	賑わいづくり	・千葉駅周辺、県庁周辺、幕張新都心、蘇我副都心の賑わいと棲み分けも必要。商業集積を誘導するとしたら、既存の集積地と共倒れになる。防災に特化するのであれば、賑わいを目指さないというのも一つの考え方。
	臨港プロムナード	・千葉駅～このエリア～千葉みなとまでの各エリアとの関係性づくりを検討可能。市民が楽しめる帯状の軸が出来れば、本庁舎の防災機能についても、市民の目に触れる機会が多くなる。 ・千葉駅からこの地域まで、さらに港までの各エリアとしての関係性づくりや、平常時と非常時の活用可能性も論点の一つ。
基本計画に向けての問題提起	本庁舎と区役所の役割分担	・大半の行政機能は区役所で済んでしまうという状況で、本庁舎がどのような業務を担っているのかを市民がイメージするのは容易ではない。 ・本庁舎から区役所への業務移管についても多く議論され、区役所機能を高めていくという流れになっていく中で、本庁舎と区役所の役割分担を議論していく必要がある。 ・避難場所についても区役所ベースでできることもあるだろうが、情報ネットワークや全体統括の面では、この場所に本庁舎があることの意味が問われる。 ・本庁舎と区役所の機能の関係、そこに着眼して今後検討していくことが重要。非常時の本庁舎の役割は、市民の避難場所ではなく、情報集約・発信拠点になるイメージである。 ・一方、市民が集まる場所として本庁舎ならではの機能がある。市役所が市民の窓口になっている通常の市と政令指定都市である千葉市の庁舎の役割は異なる。
	新庁舎の配置計画・建物計画等	・高齢化が進む中、モノレール駅から庁舎が遠くなると不便になるので配慮が必要。 ・帰宅困難者を受け入れてもセキュリティを確保できるよう、低層階の開放を想定して計画をする必要がある。 ・中圧ガスを利用したコージェネレーション導入、食品コンビナートでのバイオマス発電等との連携によるスマートグリッド化、雨水の中水利用など、環境配慮と非常時対応を両立させるようなアイデアも取り入れていく必要がある。
	新庁舎のイメージ等	・市庁舎は千葉市の顔なので、無駄と思われるスペースであっても、働く人の意欲を高める場所になるのであれば確保し、行政サービスの向上という観点で市民に還元されるのであればよい。市民が親しみやすい明るいイメージの庁舎を望む。